

授業改善推進プラン

平成23年度 学力向上を図るための全体計画

大田区立赤松小学校

- ・関係法規
- ・東京都の教育目標
- ・大田区の教育目標
- ・おおた教育振興プラン

学校教育目標

- つよくたくましい赤松の子
- よく考えくふうする赤松の子
- こころゆたかな赤松の子

- ・学校、地域の実態
- ・地域の期待や願い
- ・保護者の期待や願い
- ・期待される児童像

学力向上にかかわる学校経営方針

<子どもの学ぶ意欲を高め、主体的な学び方を学ぶ授業づくり>

◎新学習指導要領の確実な履行の下、

- ・基礎的・基本的な内容の確実な習得とその活用・探究の力を育成するための授業の質的改善
- ・自ら課題を設定し、柔軟に考え、豊かに表現する問題解決的な学習の日常化
- ・個性や能力に応じた指導の充実を図るための指導体制の工夫・改善と全教員による組織化
- ・地域に残る文化財などの教材化や人材の活用の積極的推進、体験的な活動の拡充とその体系化
- ・子どもによる自己・相互評価、教師による診断的・形成的評価の充実、子ども・保護者による授業評価の実施

各教科の指導の重点

新学習指導要領に基づき、多様な指導形態の工夫・改善を図り問題解決的な学習や体験的な学習の充実の下、一人一人の児童に基礎的・基本的な学力の確実な習得と思考力・判断力・表現力の向上を図る。

総合的な学習の指導の重点

探究的な学習の創造を目指し、「出会い、課題作り、課題追究、発表・発信」などの一連の学習過程を工夫するとともに、「かかわり・伝える力」「見だし・探究する力」「気づき・生かす力」の育成を図る。

進路指導にかかわる指導の重点

児童一人一人のよさや可能性の発見に努め、肯定的な自己理解を促す指導を進め、希望や目標をもって生きる態度をはぐくむ。

本校における「確かな学力」

1. 「学んだ力」= 基礎的・基本的な知識・理解・技能（学習到達度）
2. 「学ぶ力」=（学び方）問題解決の思考・判断力（論理的思考力）
問題解決の技能・表現力（多様な学習スキル）
3. 「学ぼうとする力」= 学ぶ意欲（やる気）



道徳教育の指導の重点

「規範意識の向上」と「思いやりの心をはぐくむ」ことを教育活動全体を通して行い、生命、人権、個性を大切にする人間尊重の精神の育成に努める。

道徳授業地区公開講座の活用を図るとともに実践への意欲を高める。

特別活動の指導の重点

児童一人一人がめあてをもち、主体的に活動することを通して活動の喜びを味わいながら、希望や目標をもち生きる態度、心身ともに健康で安全な生活態度、他を思いやり協力してよりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。

生活指導にかかわる指導の重点

基本的生活習慣の定着を図り、自他の生命、人権、個性を尊重し、他の人や物に対する思いやりやいたわりの心、規範意識を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容、指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領に基づき、習得型・活用型・探究型の学習をバランスよく指導計画に盛り込む。 ●算数は3年生以上、国語は1～3年で習熟度別少人数学習を行う。 ●ステップ学習を日常的に活用し、基礎・基本を徹底する。 ●学習効果測定や各種調査の結果を分析して十全に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●週2回朝の15分間読書タイムを実施し、読書習慣の定着と読解力向上を目指す。 ●週1回、朝学習の時間を設け、学年の課題に応じた基礎的・基本的な学力を定着させる時間とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校内研究を充実させるために部会、推進委員会を年間20回程度設定し、教員相互の研鑽が図れるようにする。 ●校内ステップアップ研修会や校内ワークショップなどを実施し、指導力量の向上を図る。 ●OJTの体制を充実させ、職階に応じた役割を担う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指導と評価を一体化してとらえ、新学習指導要領に基づいた評価活動を実施する。 ●保護者による授業評価を年4回実施し、授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域人材など外部の教育力を有効活用して、児童の多様なニーズに対応し、柔軟な学習過程が編成できるよう創意工夫と積極的推進を図る。

国語科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

1年	<ul style="list-style-type: none">音読や読書への興味・関心は概ね良好である。話を聞く態度、文章を書くときのきまりの理解については個人差が非常に大きい。
2年	<ul style="list-style-type: none">漢字反復学習及び小テストを継続的に行ったことで、1、2年生の漢字を正しく書ける割合が増加した。しかし、ほぼ完璧に習得した児童とほとんど書けない児童の個人差は大きく、個別指導が必要である。視写の継続や日常の作文指導は、文章を正しく記述できるようにする点で効果をあげた。
3年	<ul style="list-style-type: none">「司会シート」や「発表シート」を作ったことで、話し合いが活発になった。漢字は小テストや繰り返し練習を継続的にしたことで、漢字に対する意欲が高まった。おおむね身につけられたが、書けない児童も数人いて、差が大きい。→個別指導や家庭の協力が必要である。日直のスピーチは継続したことで、詳しく話せるようになった。書くことを苦手とする児童や原稿用紙の使い方が身に付いていない児童が多い。
4年	<ul style="list-style-type: none">話し合いの場で設定したことで、メモをとったり友達の意見に付け足したりしながら、意欲的に自分の考えをまとめることができた。最後まで話を聞く態度に課題が残った。
5年	<ul style="list-style-type: none">「サクラソウとトラマルハナバチ」、「千年の釘にいどむ」など説明文の授業で指示語・修飾語には重点を置いて指導を行った。しかし、苦手に思う児童もいるため来年度も引き続き重点課題として取り上げ指導を行っていく。ローマ字については、パソコンでの入力がローマ字入力でスムーズに行えるようになった。書き方を忘れていた児童もいるので、6年生では英語の授業などでぜひ取りあげたい。漢字の読み書きに関しては、力が伸びてきている。
6年	<ul style="list-style-type: none">言語事項を重視して学習を進めることができた。第6学年で習得すべき漢字を正確に書ける児童が1学期に比べ、確実に増えた。ドリルの有効活用と学年共通の方法による漢字テストの実施で効果が上がった。接続詞や類義語などの分野にはまだ課題が残る状況である。百人一首や古典の暗唱を通して伝統的な言語に意図的に触れさせるようにした。また、書くことについては、教科書の単元計画に沿って、目的や意図に応じた文章を計画的に書かせるようにしてきた。卒業文集執筆との関連を図った。

2. 「学習効果測定」結果の分析

4年	・全体的に概ね良好で、区の平均正答率を上回っている。ローマ字の理解については、他の内容と比較すると、正答率が56.4%、区の平均より14ポイント低い。
5年	・全体的に良好で、区の平均正答率を上回っている。物語や説明文の読み取りでは約8ポイント上回ったが、漢字の読み書きについては3ポイント程度上回るにとどまった。
6年	・全体に区平均正答率、期待正答率を上回っている。特に書くこと領域では20ポイント以上上回り、定着が見られる。

3. 重点課題

1年	・字形を覚えるだけでなく、筆順等にも注意して筆記することが課題である。 ・助詞や促音、拗音、濁音の使い方に注意して記述することに課題がある。 ・最後まで落ち着いて話を聞く力や、思ったことを分かりやすく話す力をもっと身に付けさせることが課題である。
2年	・漢字の字形や筆順などを正確に習得することが課題である。 ・助詞や促音、拗音、濁音を正確に記述することに課題がある。 ・最後まで落ち着いて話を聞くことや、思ったことを分かりやすく話すことに課題がある。
3年	・話し合いのルールを理解し、グループ学習の態度を身につけることが課題である。 ・相手にわかるように最後まで話したり、聞いたりすることが課題である。 ・習った漢字を正しく使えるようにすることが課題である。
4年	・「互いの考えの相違点や共通点に目を向けて、自分の考えを述べること」や「どうしてそう考えたのかの根拠を明らかにして述べること」が十分できているとは言えない。 ・文章の内容を整理しながら読むことが十分できているとは言えない。 ・作文では、段落構成を考えて書くことに課題がある。
5年	・使用局面に適した漢字の使い分けに課題がある。 ・説明文の文脈と構成を把握しながら読み取ることが課題である。
6年	・説明文の学習を通して、一つ一つの言葉の意味、接続語、文脈に着目して読み取る力を向上させる必要がある。

4. 授業改善策

1年	◎文字指導では、字形、読み方、筆順、使い方の練習を繰り返し行い、習熟を目指す。 ・「かくってたのしいね」を活用した文章指導や視写ノートによる全文視写を継続することで、文章を書くときの決まりを意識させ、助詞や促音、拗音、濁音を正確に記述することを身に付けさせる。 ◎「聞き方」「話し方」のポイントを掲示したり、日直スピーチなど全体の場で発表する機会を設けたりして、「話す力」「聞く力」を高める。
2年	◎新出漢字については、漢字ドリル・漢字ノートの確認を徹底し、とめ、はね、はらいなどの字形ポイント、正しい書き順を指導する。小テストを行い、習熟の徹底を図る。 ◎「かくってたのしいね」を活用した文章指導や視写を通して、文章を書くときのきまりを意識させ、助詞や促音、拗音、濁音を正確に記述することを身につけさせる。 ◎「聞き方」「話し方」のポイントを掲示したり、日直スピーチなど全体の場で発表する機会を設けたりして、「話す力」「聞く力」を高める。発言の仕方(相手によく伝わるような声の大きさや要点を絞った内容)を身に付けさせる。

<p>3年</p>	<p>◎司会や書記などの役割分担をはっきりと決め、話型を使って話し合いを進める。司会役は輪番制にして、どの子も司会をすることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表メモを活用し、自分の考えを整理してから発表する。 ・「～です。」「～ます。」で言い切れるようにする。 <p>◎新出漢字の指導では、小テストを行い習熟の徹底を図る。</p>
<p>4年</p>	<p>◎友達や教師の話を、中心に気を付けて最後まで聞くことを指導する。話の内容や要点を理解させ、それに対しての自分の考えをもたせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで自分の考えを述べようとする意欲をもたせるために、話し合いの場を設ける。自分の考えをメモさせたり、相手の考えに付け足しさせたりして、話しやすくなるような工夫をする。 <p>◎物語の読解では、人物の行動と場面の様子を関連付けて考えさせる。説明文では、段落に共通する語句に着目させることで書かれている内容を自分の言葉でまとめる力を付けさせる。</p> <p>◎伝えたいことの手中心を決め、書きたい内容を整理させて、段落構成を考えさせながら書かせる指導をする。</p>
<p>5年</p>	<p>◎新出漢字の指導では、該当の漢字一字を扱うだけでなく熟語として扱うことで使用局面に適した読み書きができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字は何度も復習させ、小テストで定着度を確認する。 ・分かりづらい単語や言い回しを、まめに国語辞典で引かせる。 <p>◎説明文の学習では、文章の構成を丁寧に把握する活動を行う。接続詞や段落ごとの要点に注目させ、段落ごとにタイトルをつけながら読み進める。</p>
<p>6年</p>	<p>◎説明文での読み取りに重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で文を読み取る時間を多く設定し、語句や文章構成に着目して考えさせる。 ・筆者の考えの主旨を確認させる。 ・文章から論拠をもって、自分の考えをもたせる。 ・友達と自分の意見を比較させ話し合わせる。 ・話し合いを踏まえて再度、個人で考え意見を書かせる。

社会科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

3年	<ul style="list-style-type: none">・東西南北や地図記号を繰り返し指導したり、掲示したりしたことで身に付いてきた。・資料から読み取ることが苦手な児童が多く、引き続き課題である。
4年	<ul style="list-style-type: none">・方位、場所など、地図上の情報を正しく読み取る力が身に付いた。縮尺については、理解が十分とはいえない。・新聞作りやパンフレット作りでは、必要な情報を取り出し工夫してまとめようとする意欲が見られた。しかし、内容には個人差があり、得た情報を貼り付けるだけの児童もいる。
5年	<ul style="list-style-type: none">・都道府県名の暗記にくり返し取り組み、身に付いてきた。・基本的な資料の見方は身に付いてきている。しかし、資料を総合的（比較・統合）に読み取る力には個人差が見られるので引き続き課題としたい。
6年	<ul style="list-style-type: none">・特に歴史分野においては、知識伝達型の授業だけでなく、政策疑似討論会、調べ学習発表会など、多様な形態を試みた。新聞作りにも時間を割き、資料を活用するとともに、自分の考えを表現する機会をつくった。当初予定していた、資料の分析や検討、吟味、加工・整理には十分に迫ることができなかった。学校図書館やパソコン室の利用は計画的に実施することができた。基礎的な知識は概ね身に付けさせることができた。

2. 「学習効果測定」結果の分析

4年	<ul style="list-style-type: none">・平均正答率は区の平均を上回っているが、期待正答率に対しては他の教科に比べて上回り方が小さい。地図の読み取り、資料活用に関する問題の正答率が低い。
5年	<ul style="list-style-type: none">・概ね区平均正答率を上回った。「技能・表現」や「知識・理解」の正答率が高く、知識が定着しているだけでなく資料活用力も高いことが分かる。一方、「思考・判断」は前述の2観点に比べ芳しくない。
6年	<ul style="list-style-type: none">・概ね区平均正答率、期待正答率を上回っているが「我が国の農業や水産業」では期待正答率を下回った。「カントリーエレベーターの仕組み」「海流の名称」など、この単元の知識・理解の不足が見られた。

3. 今回の調査における課題（重点）

3年	<ul style="list-style-type: none">・地図の読み取り、東西南北の方位を正しく理解する必要がある。・資料に慣れ、活用できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none">・地図を読み取ったり、資料を活用したりする力を伸ばしていく必要がある。
5年	<ul style="list-style-type: none">・問題に正対し、社会的事象から考えられることを的確に答えることに課題がある。
6年	<ul style="list-style-type: none">・社会的事象についての知識・理解を深めていく必要がある。その上で、社会的な思考判断の力も向上させていけるとよい。

4. 授業改善策

3年	◎社会的事象への疑問から問題を追究させ、問題解決的な学習の基本を理解させる。また、各単元の要点事項を理解させる。 ・見学などを通して分かったことや気付いたことを、地図を用いてまとめさせる。 ・方位や地図記号を教室に掲示し、ゲームなど通して理解を深めさせる。 ◎地域の様子を的確に観察、調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりさせる。 ・教科書などの資料から必要な情報を読み取り、新聞などにまとめさせる。
4年	◎社会的事象への疑問から問題を追究させ、問題解決的な学習の基本を理解させる。また、各単元の要点事項を理解させる。 ・地図をもとに考える指導を行い、方位、施設の場所など、地図上の情報を正しく読み取らせるとともに、地図記号を正しく理解させる。 ◎地域の様子を的確に観察、調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりさせる。 ・資料の読み取りの場面では、読み取りのポイントを示す。個人での読み取りと全体での共有の時間を設け、資料に対する見方を深めさせる。
5年	◎社会的事象への疑問から問題を追究させ、問題解決的な学習の進め方を理解させる。また、各単元の要点事項を理解させる。 ◎資料から必要な情報を収集、精選させ、作品などにまとめさせる。また、発表の機会を設定する。 ・資料をじっくりと読み取り、そこから分かることを書いたり発表したりする活動を日常的に取り入れ、積み重ねさせる。 ・資料の読み取りの場面では、読み取りのポイントを示し、資料に対する見方を深めさせる。
6年	◎社会的事象への疑問から問題を追究させ、問題解決的な学習の進め方を理解させる。また、各単元の要点事項を理解させる。 ・具体的な絵や写真資料を提示し、文化、人物、人々の暮らしの様子について時代・政治・国際社会の特徴をとらえさせる。 ◎資料から必要な情報を収集、精選させ、作品などにまとめさせる。また発表の機会を設定する。 ・人物カードや表・グラフを活用して年表や新聞などを作成させる。 ・憲法の三原則や政治の仕組みについて、社会科見学も活用し、具体的な事例に基づいて考えさせ、新聞形式などでまとめ発表させる。

算数科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

1年	<ul style="list-style-type: none">・ 計算問題の処理は良好であるが、文章問題の意味理解が不十分な児童がいる。・ 時計を読む学習での、個人差が非常に大きい。
2年	<ul style="list-style-type: none">・ たし算、ひき算、かけ算は、反復練習を徹底しておおむね良好であるが、処理速度に個人差が大きい。・ 時刻や時間の理解、水のかさの単位の換算、三角形や四角形の作図などに、つまづきが見られた。
3年	<ul style="list-style-type: none">・ 時間や時刻、文章問題などを時計の目盛り、数直線、テープ図などで示すことで理解につなげることができた。・ 長さや水のかさ、重さなど目盛りを読ませる活動や単位換算の学習を繰り返し行ったことで、定着を図った。
4年	<ul style="list-style-type: none">・ 作図や実物に触れる活動を通して、図形を多面的にとらえる力が付いた。・ 基礎基本の定着に加え、様々な問題に挑戦させたことで、意欲と応用力を伸ばすことができた。しかし、個人差が広がり、両極化していることが課題である。
5年	<ul style="list-style-type: none">・ 数直線を使って問題を解くことができるようになった。割合・百分率も数直線を使って考えたり説明したりできるようになった。・ 答えを見積もる活動については個人差が見られ、引き続き指導していく必要がある。
6年	<ul style="list-style-type: none">・ 内容を選定した反復練習（スパイラル型）や小学校算数の徹底復習を行い、計算や作図などの基礎技能の向上が見られる児童が多かった。各単元で、内容の習得に時間がかかり、活用型・探求型の授業を十分に設定することができなかった。

2. 「学習効果測定」結果の分析

4年	<ul style="list-style-type: none">・ 平均正答率は概ね良好で、区の平均を6ポイントほど上回っている。分数の大小比較や1－分数の減法、図形の応用問題など新学習指導要領で新しく加わった内容で期待正答率を下回っている。
5年	<ul style="list-style-type: none">・ 校内平均正答率は、区の平均を3ポイント、期待正答率を11ポイント上回っている。内容別に見ると、「角の大きさ」が期待正答率をやや下回り、「がい数の表し方」が区の平均を下回っていた。正答率分布度数をみると、約半数の児童が9割以上の点数を取っている。
6年	<ul style="list-style-type: none">・ 観点別、内容別ともに期待正答率を上回っている。校内平均の点数で見ると「単位量あたりの大きさ」の内容がやや低い。また、整数÷小数の商と余りを求める問題で期待正答率を下回った。

3. 重点課題

1年	<ul style="list-style-type: none"> 指などの具体物を使わなければ10までのたし算・ひき算が解けない児童がいる。 計算カードによる練習を重ねたが、計算問題の処理速度の個人差が大きい。 絵を見て文章問題を作る活動でつまづく子が多かった。
2年	<ul style="list-style-type: none"> たし算・ひき算を正確に、速く計算することが課題である。 直線の引き方を習得することに課題がある。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 時間や時刻を求めることの理解が不十分な児童が多い。 円と球でのコンパスを使った作業が苦手な児童が多い。 かけ算や大きな数の計算の習熟が不十分な児童が見られる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の定義や球の半径、四角形の対角線の特徴、大きな角度の作図の理解が十分ではない。 基礎的な内容の理解は概ねよい。思考力を求められる問題を苦手とする児童が多い。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 分度器を使って角度を測る操作や作図が苦手で、正確さに欠ける児童が多い。 二次元表を利用して問題を解くなど、数量関係の理解を定着させる必要がある。 個人差の広がりが大きく、両極化していることが課題である。理解度に応じた指導が必要である。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 単位量を求めることで混み具合を比較できることの説明が十分にできていない。 整数÷小数の問題で商と余りを確実に求めることが十分にできていない。

4. 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> ◎問題把握後、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして、式の意味を考えたり、立式の判断が確実にできるようにしたりする。 ・問題場面を具体化したり、問題作りのキーワード（「あわせて」「ふえると」「のこりは」「ちがいは」）に焦点を当てたりしながら、意味理解を深めるようにする。 ◎計算練習や計算カード、百玉そろばんなどで反復練習することで、たし算、ひき算の計算が、速く正確にできるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◎自力解決の時間を十分に設け、答えを求める過程を重視する。特に、問題の解決に当たって、言葉、数、式、図等を用いて考えたり、友達に分かるように説明したりする活動を多く取り入れる。 ◎たし算、ひき算、かけ算を正確に速く計算するために、反復練習を定期的に行う。1ヶ月に1回はミニテストを行う。かけ算については、検定を行い、確実な定着を図る。 ◎ノート指導の際などに定規を使って直線を引かせるなどして日常的に定規の使い方に慣れさせ、三角形や四角形の作図などにも繋げていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◎自力解決の時間を十分に設け、答えを求める過程を重視する。特に、問題の解決に当たって、言葉、数、式、図、表等を用いて考えたり、友達に分かるように説明したりする活動を多く取り入れる。 ◎集団での検討場面を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。 ◎日常の中で時間や時刻について意識的に触れる機会を増やす。 ◎コンパスを使った作業を、朝学習などを使って年間を通して経験させる機会を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップ教室等を有効に活用し、個別に支援する。 ・「たしかめプリント」などを活用して、繰り返し練習し習熟させる。

<p>4年</p>	<p>◎習熟度別の授業を充実させ、児童の欲求を満たしながら、一人一人の能力を伸ばす。</p> <p>◎自力解決の時間を十分に設け、答えを求める過程を重視する。</p> <p>◎集団での検討場面を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジコース」は、多様な方法で、言葉、数、式、数直線、図、表等を用いて考えたり、友達に分かるように説明したりする活動を多く取り入れ、思考力・表現力を伸ばす。「のびのびコース」は、教科書に沿って進みながら基礎的・応用的問題を適時に組み入れ、自分なりの方法で考えたり説明したりする活動を重視し、理解力を伸ばす。「じっくりコース」は、具体物や図等を用いて説明させることによって理解を定着させる。 <p>◎図形の学習では、「見当、実測、振り返り」の活動を通し、図形についての感覚を豊かにする。</p>
<p>5年</p>	<p>◎習熟度別の授業を充実させ、児童の欲求を満たしながら、一人一人の能力を伸ばす。</p> <p>◎自力解決の時間を十分に設け、答えを求める過程を重視する。</p> <p>◎集団での検討場面を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジコース」は、多様な方法で、言葉、数、式、数直線、図、表等を用いて考えたり、友達に分かるように説明したりする活動を多く取り入れ、思考力・表現力を伸ばす。「のびのびコース」は、教科書に沿って進みながら基礎的・応用的問題を適時に組み入れ、自分なりの方法で考えたり説明したりする活動を重視し、理解力を伸ばす。「じっくりコース」は、具体物や図等を用いて説明させることによって理解を定着させる。 <p>◎計算、作図などの基礎技能を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度にかかわらず、苦手な児童が多いので、朝学習や授業の数分間を利用して反復練習を繰り返す。 ・ドリル、たしかめプリントやチャレンジプリント、補助教材を有効活用する。間違えた箇所は直させるなど、教師がこまめにチェックし、確実に習得させる。 ・ノートの書き方を統一し、正確に書かせるようにする。
<p>6年</p>	<p>◎習熟度別の授業を充実させ、児童の欲求を満たしながら、一人一人の能力を伸ばす。</p> <p>◎自力解決の時間を十分に設け、答えを求める過程を重視する。</p> <p>◎集団での検討場面を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジコース」は、多様な方法で、言葉、数、式、数直線、図、表、グラフ等を用いて考えたり、友達に分かるように説明したりする活動を多く取り入れ、思考力・表現力を伸ばす。「のびのびコース」は、教科書に沿って進みながら基礎的・応用的問題を適時に組み入れ、自分なりの方法で考えたり説明したりする活動を重視し、理解力を伸ばす。「じっくりコース」は、言葉、数、式、図、表等を用いて説明させることによって理解を定着させる。 <p>◎計算や作図などの基礎技能を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復練習（スパイラル型）の内容を選定し、時間設定をより明確にしながら授業に位置付ける。間違えた箇所は必ず修正させる。教師がノート、プリントをこまめにチェックする。（たしかめプリントやチャレンジプリント、ドリル、補助教材の有効活用と確実な実施） <p>◎数直線等を用いて、割合や単位量あたりの考え方の理解を深め、定着させる。</p>

理科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

3年	<ul style="list-style-type: none">・自分で育てる活動を通して、身近な昆虫や植物に親しみ、進んで観察することができた。・調べる活動を通して、昆虫や植物の成長のきまりについて考えをもち、理解することができた。・気付いたことや分かったことをまとめる力、科学的なものの見方・考え方には、まだ熟練していない。
4年	<ul style="list-style-type: none">・観察や実験を通して、問題解決の手順を身に付けることができた。・1年間サクラの木を観察し、植物の成長と気温の変化が関連していることを理解することができた。・ノートのとりの指導が十分とは言えない。
5年	<ul style="list-style-type: none">・電気の働きに関する理解は深まったが、条件制御の考え方が不十分な児童が見られるので、来年度は一年間かけてじっくり取り組みたい。
6年	<ul style="list-style-type: none">・ノートチェックをこまめに行い、評価することで、実験の図をかいたり、結果を表やグラフに表したりする能力が高まった。実験を増やし、具体的な経験を通じた知識の獲得は概ねできたが、論理的な視点で考察する能力の向上はもう一歩だった。

2. 「学習効果測定」結果の分析

4年	<ul style="list-style-type: none">・領域別・観点別・問題の内容別に見ると、いずれも区の平均を上回っており、良好である。生物とその環境の領域の問題では正答率が低い。
5年	<ul style="list-style-type: none">・平均正答率は、区の平均を4ポイント上回っているが「電気のはたらき」については、1.5ポイント下回った。観点別にみると、観察・実験の技能・表現が、区の平均をやや下回っている。
6年	<ul style="list-style-type: none">・観点別に見ると<自然事象への関心・意欲・態度><科学的な思考><技能・表現><知識・理解>ともに区の平均正答率を上回っている。内容別に見てもどの内容も、区の平均を上回っている。しかし、期待正答率と比べると、観点別では、<技能・表現>内容別では、「天気とその変化」がやや下回った。

3. 今回の調査における課題（重点）

3年	<ul style="list-style-type: none">・観察を通して気付いたことを、自分の言葉で表現する力を育てる。・実験・観察を通して、比較したり、細部にまで目を向けたりできるようにする。・自然事象についての知識・理解の定着を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none">・生物の分野では、環境との関連付けに慣れていない。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・「電気のはたらき」の内容で、自動車を速く走らせる電池のつなぎ方を作図する問題ができていない。直列つなぎにするという知識はあるが、実際に配線ができないということは、経験・体験不足が考えられる。経験・体験を通して、実感を伴った知識の定着を図る必要がある。 ・「電気のはたらき」については、一人一人が実験を行い、モーターカーを製作したにもかかわらず、全般的に正答率が低いのは、知識の獲得が不十分だったと言える。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「天気とその変化」の内容では、「晴れ」の定義に関する問題や天気の変化を予想する問題において、知識がしっかりと定着していなかった。どの内容もそうであるが知識を確実に定着させる必要がある。

4. 授業改善策

3年	<ul style="list-style-type: none"> ◎実験・観察の際に比較したり、細部に目を向けたりするなどの視点を明確にする。 ◎記録の仕方、ノートのとまとめ方を指導しながら、分かったことをまとめる時間を多く設け、知識・理解を定着させる。 ◎一人一人が操作を通して技能習熟ができるような学習過程を工夫する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ◎知識・理解の確実な定着を図るために、実験や観察を通して、問題を解決していけるような学習活動を展開する。 ◎教科書を有効に活用しながら、まとめの時間をとる。また、理科用語を使って自分が学習してきたことを振り返らせるようにする。 ◎友達と情報交換する場を設け、新しい考えを見いだしたり、自分の考えに付け足したりできるようにする。また、「植物の成長」では、季節の気温の変化と関連付けて考えさせるようにする。 ◎ノート指導を定着させ、自分の予想や実験手順をしっかりと記述させ、学習過程を身に付けさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ◎知識を確実に定着させるために、 <ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに振り返りの時間を設ける。 ・理科用語のキーワードコーナーを教室に設けるなど学習環境を整え、正しい用語を用いた学習が積み重ねられるようにする。 ◎問題解決能力を育て、科学的な思考を高めるために、 <ul style="list-style-type: none"> ・導入時に実感を伴った体験を十分に経験させ問題解決への意欲・関心を高める。 ・条件制御をしながら観察、実験を行い、量的変化や時間的变化に着目して調べさせる。 ・ノート指導を定着させ、自分の予想や実験手順をしっかりと記述させ、学習過程を身に付けさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ◎知識を確実に定着させるために、 <ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに振り返りの時間を設ける。 ・理科用語のキーワードコーナーを教室に設けるなど学習環境を整え、正しい用語を用いた学習が積み重ねられるようにする。 ◎問題解決能力を育て、科学的な思考を高めるために、 <ul style="list-style-type: none"> ・導入時に実感を伴った体験を十分に経験させ問題解決への意欲・関心を高める。 ・要因や規則性、関係を推論しながら観察、実験を行い、計画的に探究させる。 ・ノート指導を定着させ、自分の予想や実験手順をしっかりと記述させ、学習過程を身に付ける。

生活科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

1年	<ul style="list-style-type: none">・スタートカリキュラムを実施したことで、スムーズな学校生活のスタートが切れた。・自然や人とのかかわりに興味をもって取り組む児童が多く、動植物の飼育や観察も熱心に行っているが、取り組みへの個人差も見られた。
2年	<ul style="list-style-type: none">・野菜の栽培では、国語の「かんさつ名人になろう」の単元と関連させながら、五感を使って観察することができた。また、伝統野菜（馬込半白胡瓜、馬込三寸人参、品川大長カブ）、給食の残り野菜（キャベツ、人参、大根）の栽培なども設定し、多様な活動を楽しむことができた。・モルモットの飼育では、日記（国語）や絵画（図工）など、他教科とかかわりをもたせた楽しい活動を展開できた。また、獣医師に質問してみたりビデオレターで回答して貰ったりして、1年生の時以上に動物の命を大切にする心情を育てることができた。・高齢者との交流「つたえたいなこんなこと」では、お年寄りに喜んでもらえるには…を常に意識させた。交流の合間に手紙を出したり、給食交流会で育てたサツマイモを食材にしたり、思い出プレゼントを準備したり…、他者と気持ちを伝え合う嬉しさや喜びを感じることができた。・「大きくなったよわたし」では、誕生時や名前の由来などを聞き取ることで、自分の存在がかけがえのないものであると気付いた。また、等身大の自画像を描いたり、調べたことを発表したりすることで、友達の喜びを共有し、相互理解を深めることができた。

2. 課題（重点）

1年	<ul style="list-style-type: none">・6年生との交流、2年生との交流の体験では、身近な人々とかかわりに関心をもつことはできていた、今後は主体的に計画を立てて活動するための指導が必要である。・あさがおのお世話に個人差が見られた。成長の様子に気付いたり表現したりする面にも個人差があらわれていた。
2年	<ul style="list-style-type: none">・モルモットのお世話を楽しんでいるが、責任をもって仕事を行うことに個人差がある。

3. 授業改善策

1年	<p>◎「つくってあそぼう」(幼稚園の子どもたちと)や「あきをさがそう」(2年生の児童と)の活動では、相手と自分とのかかわりを常に意識し、主体的に考え、積極的に活動できるようにさせる。ワークシートを活用し、評価、教室掲示することで意識を高める。</p> <p>◎動植物を育てる活動の際に愛着をもつことができるように手だてをとったり(名前をつける)、発見したことを朝の会で発表したりする。</p> <p>◎気付いたことを適切に表現できるように、他教科の学習と関連させながら表現力を身に付けさせる。(国語の中で文型の指導や図工での描画のポイント指導など)</p>
2年	<p>◎モルモットのお世話を責任をもって行うことに個人差があるため、仕事手順を示したカードを使って明確にし、各自が責任をもって仕事を行うようにする。1年生にモル世話を教えてあげようというめあてをもち、積極的にお世話をしようとする意欲を高めていく。</p> <p>◎人とかかわりに対しては経験が少ないが、お年寄りに喜んでもらえるためにどうしたらよいかを常に考え、イベントの計画を話し合い、接し方のマナーや態度についても指導していく。</p>

音楽科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

音楽が好きになってきたと言う児童が増えてきたように思う。こちらが思うほど児童自身は「好き」という感覚ではない。高い評価であっても、その子自身は音楽を苦手と思っている例も多かった。児童への評価について、もっと自覚させるための手だてが必要である。

2. 現在の分析

内容別	表 現		鑑 賞	
	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、好きだから歌うという子がまだまだ多い。 ・器楽においては、5学年くらいになるとはリコーダーの演奏に慣れてきて、音色の出し方に気を付け、吹いているのが分かる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達の演奏を聴き合い、そのよさに気付いたり、高めたりすることに意欲をもつ子が増えてきている。 ・楽曲を聴き、楽器の音色の違いや、音の重なりに気を付けて聴けるようになってきた。 	
観点別	関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む児童が増えてきている。一方、できないとあきらめてしまう子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や器楽では、曲の感じに合うように演奏できるまでに時間がかかってしまう。仕上がりが遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や器楽では、リズムや音程を自分自身でつかむことができない子が何人かいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏を聴き、楽器の音色の違いや、音の重なり的美しさに気づき、聴くことができる子が増えた。

3. 課題（重点）

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく歌うことへの感受 ・ 音楽に合わせて体を動かす表現
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく合唱することへの感受 ・ 鍵盤ハーモニカの演奏の楽しさと、基礎の徹底
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然で無理のない歌唱、音色を考え、皆と声をそろえる力 ・ リコーダーの基礎的な演奏の力
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然で無理のない歌唱、合唱での聴き合う力 ・ リコーダーの表現力の向上
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱での聴き合いや、響きの出し方を意識する力 ・ 合奏するとき、自分の旋律を確認し、合わせる力 ・ 鑑賞の能力の向上

6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱での聴き合いや、響きの出し方を意識する力 ・ 合奏するとき、自分の旋律を確認し、構成を考え、合わせる力 ・ 鑑賞の能力の向上
-----------	--

4. 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現しやすい楽曲の選択をし、楽しんで歌うことができるようにする。 ・ 興味をもち、親しみやすい教材の選択や速さ、ことばをゆっくり確かめながら指導する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声の出し方の方向性を確かめ、無理のない声で歌えるよう指導し、合唱するときには、友達の声聴き合うように意識をさせる。 ・ 鍵盤ハーモニカでは、指使いが安定するよう、指番号の確認や、手・指のかたちを確かめ、自分で気を付けることができるよう指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声の出し方を考えさせ、合唱のときなど、他のパートを意識し、音の重なりを感じるようにさせる。 ・ リコーダーの演奏では、自分が出している音をよく聴き取るための工夫や、友達と聴き合い、演奏に生かすように指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲に合った声の出し方を考えさせ、合唱のときなど、他のパートを聞き、音の重なりを響きを感じるようにさせる。 ・ リコーダーの演奏では、音色つくりやタンギングを演奏に生かすように指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱では、互いのパートの演奏を聴き、高め合いながら美しい響きを体得させる。 ・ 合奏では、自分が演奏するパートの役割を理解し、互いの音を聴き合いながら演奏させる。 ・ 鑑賞では、楽曲のよさや音色、楽器の特徴などを感じさせ、互いに伝え合う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱では、互いのパートの演奏を聴き、表現の工夫をし、高め合いながら美しい響きを体得させる。 ・ 合奏では、自分が演奏するパートの役割を理解し、全体の構成を考え、表現の工夫をし、互いの音を聴き合いながら演奏させる。 ・ 鑑賞では、楽曲のよさや音色、楽器の特徴などを感じさせ、互いに伝え合う。

図画工作科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- ・「試行錯誤」「鑑賞」について特に重点的に指導の工夫を行った結果、どの課題においても「自分の表現」を追究する児童が大変に増えた。また、一つの見方にとらわれない「創造的な鑑賞」の力を身に付けてきている児童が増えた。
- ・新学習指導要領における「自分らしく感性を働かせて」という新しい文言に対応し、児童一人一人が自信をもって自分らしく造形表現活動を追究していく「プロセス重視」の授業研究を進めた結果、造形活動における自己決定力が児童に身に付いてきている。

2. 現在の分析

内容別	表 現		鑑 賞	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現を目指して、試行錯誤できる児童が増えた。 ・造形活動における自己決定力が身に付いてきている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・どんな作品にも、自分なりの意味や価値をもてる児童が増えた。 ・鑑賞を「楽しい」と感じる児童が増えた。 ・制作の途中で、自分の作品をじっと見つめたり、材料を鑑賞する児童が増えた。 	
観点別	関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって、より美しいもの、よいものにしていくとする意欲が高まってきている。 ・図工が楽しいという気持ちがすべての学年に育っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「考える時間」を意図的に設定したり、題材を見直したりすることで、発想・構想の力が伸びている。また、自分の発想に自信をもち、決定していく力が伸びている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底した安全指導により、道具に対する意識付けができ、また正しく使おうとする態度が身に付いてきている。 ・様々な材料の特徴を生かした表現ができる児童が増えた。 ・自己の表現したいものを支える「基礎的・基本的な技能」の低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな作品にも、自分なりの意味や価値をもてる児童が増えた。 ・鑑賞を「楽しい」と感じる児童が増えた。

3. 課題（重点）

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びを通しての資質・能力の育成（絵の具遊び、鑑賞遊びを含む） ・のりやはさみなどの基本的な道具の技能指導
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びを通しての資質・能力の育成（絵の具遊び、鑑賞遊びを含む） ・児童一人一人の感性を大切に評価
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめての図工室における授業ルール、態度、意欲の向上 ・個人絵の具や接着剤、紙工作における基本的な技能指導

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉や物語からイメージを広げることが苦手な児童への手だて ・ 色彩や接着剤、木工作、木版画における基本的な技能指導
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感じたこと、考えたことをどう表現するか？でつまづいてしまう児童への手だて ・ 色彩や接着剤、木工作、木版画における基本的な技能指導
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生の表現への抵抗、意欲の低下への手だて ・ 自己の表現を追究するための基本的な技能指導の徹底（中学への接続）

4. 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担任と図工専科での情報交換を行い、実態に応じた具体的な学習内容やカリキュラムを設定する。造形遊びと表現活動、鑑賞活動をつなげて設定するなどする。 ・ 児童のイメージを大切にする、表現のプロセスを評価するなど、新指導要領に即した評価方法を行っていく。 ・ 道具の使い方を繰り返し指導し、安全に使えるようにさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担任と図工専科での情報交換を行い、実態に応じた具体的な学習内容やカリキュラムを設定する。造形遊びと表現活動、鑑賞活動をつなげて設定するなどする。 ・ 児童のイメージを大切にする、表現のプロセスを評価するなど、新指導要領に即した評価方法を行っていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の意欲を高めるために、造形遊び的な活動や短い単元設定の工夫を行う。各題材において必要な基礎的・基本的な技能を導入や展開の中で徹底し、全員に習熟させる工夫を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ すぐに絵を描かせるのではなく、いったん物語を簡単な文章に起こすなど、構想を練る場面を工夫する。また、描きたい物はあっても、どのように描けばよいか分からないことが多いため、図鑑や写真などの資料を増やす。 ・ 題材において必要な基礎的・基本的な技能を導入や展開の中で徹底し、全員に習熟させる工夫を行う。また、技能遊び的な小さな題材を開発する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発想したこと、イメージしたことを丁寧に聞き出し、表現方法を一緒に検討したり、必要に応じて技能指導したりするなどして壁を乗り越えられるように支援する。 ・ 題材において必要な基礎的・基本的な技能を導入や展開の中で徹底し、全員に習熟させる工夫を行う。また、技能遊び的な小さな題材を開発する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現意欲低下の背景には、「何を作ればいいのか分からない」という発想の問題が大きいと思われる。参考作品や資料を増やし、また、児童の発想を引き出す問いかけを工夫する。 ・ 題材において必要な基礎的・基本的な技能を導入や展開の中で徹底し、全員に習熟させる工夫を行う。また、技能遊び的な小さな題材を開発する。

家庭科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

<5・6年>

- ・裁縫では、玉止め・玉結び、返し縫いをきちんと行ったことにより、丁寧な作品作りができた。
- ・一人調理の形態を取り入れたことにより、自信をもって家庭で実践することができた。
- ・学習したことを家庭で実践する機会を考えていったが数多くはできなかった。地域が協力的であるので、もう少し回数を増やし実践力を高めていきたい。

2. 家庭科における課題（重点）

5年	<ul style="list-style-type: none">・初めての調理実習や裁縫では、技能の習得に時間がかかる。・生活経験や興味による進度の差や完成度の差が大きい。・学習したことを生活に生かし実践するためには、家庭の協力が必要なことが多い。
6年	<ul style="list-style-type: none">・調理実習で協力して計画を立て、実践することができたが、技能での個人差がある。・家族の一員として自分たちの生活をよりよくすることを考えることはできるが、実践するところで意欲の継続が難しい。

3. 家庭科の授業改善策（重点）

5年	<ul style="list-style-type: none">◎裁縫では、作品作りの前に基礎・基本の技能の習熟をする時間を確保する。・調理実習では、一人一人が材料を切ったり調理したりできるように、一人調理の形態を取り入れる。◎学習したことを家庭で実践できるように、ワークシートの中に、家庭からのメッセージ欄を設け、家庭での協力を仰ぐ。
6年	<ul style="list-style-type: none">◎裁縫では、作品作りの前に基礎・基本の技能の習熟をする時間を確保する。◎学習したことを家庭で実践する機会を設け、家庭からのメッセージ欄を設けて、家庭との連携を図っていく。

体育科 授業改善プラン

1. 昨年度の授業改善プランの検証

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・整列や集合に時間がかかる児童がいる。 ・多様な運動経験が少なく、技能面や体力面で偏りや個人差が見られる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動のきまりの徹底を継続して図り、整列、移動、安全、協力などの面で徐々に改善が見られる。 ・好き、あるいは得意な分野の運動には意欲的であるが、様々な運動の経験が少ない。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・チームやグループごとに、作戦会議や振り返り、教え合う時間を設けたことで、技術を高めたり、意欲的に取り組んだりすることができた。 ・集団の決まりを指導してきたが、整列・移動・安全などに時間がかかったり、繰り返し指導したりしてきた。意識の高まりに個人差が見られる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに記録をしたことで、自分の力を伸ばそうという意欲が見られた。 ・友達のおさや工夫していることを見付けることができたが、それを自分に生かそうとするまでには至らなかった。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや振り返りの時間を設けて技能を高められるようにしていったが、動きのポイントの理解を深めることによりさらに充実をさせていきたい。 ・体力を高める運動として遊具を使ったサーキットトレーニング、手押し車、変形ダッシュ、鬼ごっこを授業前に取り入れた。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの運動特性に応じた技能を身に付けさせるようにした。例えば、器械運動系ならば腕支持を重点的に指導し、球技ではボール操作能力の育成とコンビネーションプレイを習得させた。しかし、学習規律の面で問題が残り、年間を通して十分な技能や態度の育成ができたとは言い難い。

2. 今回の調査における課題（重点）

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動のきまりを守ったり、友達と仲良く運動したりすることへの意識が低い児童が見られる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動のきまり、整列、移動、などをすばやく行うことに課題がある。 ・苦手な分野の運動にも積極的に挑戦する意識が低い。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動のきまり、整列、移動などを素早く行うことに課題がある。 ・めあてを達成するために、運動を工夫して行ったり、チームで作戦を立てたりすることができるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のおいところを見付けて取り入れたり、自分で考えて工夫したりすることができるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・跳躍力と短距離走は優れているが、敏捷性と投能力が不足している。 ・全体として、バランスの取れた体力が育っているとは言えない。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な筋力、持久力が不足している。 ・ボールの投げ方、捕り方のフォームが形成されていない。

3. 授業改善策

1年	◎集団行動のきまりやその大切さやよさが伝わるように声をかける。順番やルールを守ることや、安全に気を付けることを繰り返し指導し、身に付けさせる。 ・1回の指示による行動、私語をしない、姿勢の維持についてその都度、繰り返し指導する。
2年	◎集団行動のきまりやその大切さが伝わるように声をかけ、順番やルールを守ることがを繰り返し指導し、身に付けさせる。 ◎学習カードを活用したり、友達のよさを見付けたりすることで、自分の課題をもてるようにする。
3年	◎友達との教え合いや作戦の話し合いの時間を設ける。 ・学習カードを活用し、自分のめあてを立てるようにする。 ・めあてが達成できたかを振り返る時間を設定する。
4年	◎学習カードを用意して、めあてを明確にし、上達するための方法を考える機会をつくる。 ◎友達との教え合いや作戦の話し合いの時間を設けることで、めあてを意識して工夫できるようにする。 ・友達のよいところを発見して発表する時間を、授業の最後に習慣化してつくる。
5年	◎鬼ごっこなどを授業の導入で取り入れたり、ボール運動では1人が何回もボールを投げる機会を設定したりする。 ・準備運動でストレッチなどの柔軟運動を加える。 ・休み時間の外遊びを奨励する。 ◎学習カードを用意して、めあてを明確にし、上達するための方法を考える機会をつくる。
6年	◎持久力を高めるために、腕立て伏せ・斜め懸垂・上体起こし・足の屈伸などの運動メニューを45分の授業の中に効果的に組み込んでいく。特に準備運動の内容を見直し、適度な負荷を加えて、ウォーミングアップがそのまま筋パワーの向上や敏捷性の育成につながるようにする。 ・ボール投げは、踏み込みや腕の使い方、スナップ等、理想的なフォーム自体をきめ細かく指導し、不十分なところをチェックして個別の支援を実施する。 ◎学習カードを用意して、めあてを明確にし、上達するための方法を考える機会をつくる。